

地域連携協働NEWS

福島県教育庁南会津教育事務所 総務社会教育課

Ⅰ 伝統芸能「小林早乙女・梁取神楽」明和小学校3,4年生

1月18日(火)明和小学校3,4年生の伝統芸能の練習会を訪問しました。明和地区の伝統芸能保存会の皆さんによる熱心な御指導は脈々と受け継がれる伝統を感じさせるものでした。3年生が「小林早乙女」、4年生が「梁取神楽」の特訓中です！今後数回の練習を経て2月に明和小学校で行われる発表会に臨みます。



【扇子のさばき方が難しい～】



【道化の動きは独特】

総勢4人の3年生は「お囃子」まで手が回りません。上学年が友情出演かな？

【小林早乙女】県無形民俗文化財(H18.4.7)

小林早乙女は豊作祈願の踊りです。江戸時代の初め、会津地方で冷雨が続き、大凶作となって困り果てた農民が、若い娘二人に晴れ着を着せ、道化役の男一人と、種おろしから田植えまでを振り付け踊ったのが始まりです。翌年は大豊作となり、それ以後続けられてきました。

小林地域では昭和35年に小林早乙女保存会を結成し、後継者を育成しながら伝統を伝えています。

【梁取神楽】県無形民俗文化財(H18.4.7)

祭礼の時に雨乞いのため、南郷の鹿島神社、二軒在家の若宮八幡宮、梁取の観音堂で演じられたものが始まりとされています。

現在は鹿島神社(南会津町)の遷宮の神事に奉納されており、160年以上の歴史があるとわれています。

遷宮とは、本殿の屋根替えのために神様を、一度近くのお宮に移してまた戻すことで、20年に一度行われます。

この伝統は地元の梁取芸能保存会によって受け継がれています。



【笛は習得が早い!】



【練習熱心な三味線チーム】



【太鼓はリズムの大黒柱】



【今日はありがとうございました!】



【獅子の動きの意味を理解しながら舞います】



伝統芸能の継承は容易ではありません。地域と学校が手を取り合い、後継者を育てていくことが大切です。労を惜しまず学校を応援してくれる地域の方々と、郷土愛豊かな子供たちの存在は欠かせませんね。

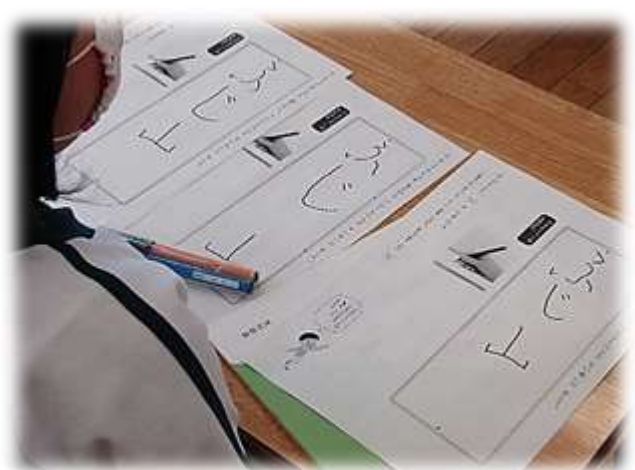
2 書写教室 1,2年生

この日明和小学校では、地域の書道の先生である平山さんと目黒さんを講師としてお招きし、フェルトペンでの書写教室が行われました。今回で2回目です。

1年生の課題は『ふじ山』、2年生の課題は『元気にあいさつ』です。静かで落ち着いた雰囲気の中で時間が流れていました。



【よい字を書くには「人の話をよく聞く」ことが大切です】



【立派に『ふじ山』が書けました】



【まずはよい姿勢になりましょう。机は曲がっていませんか】



【お手本をしっかり見てバランスをとりました】

講師の先生方は「みんなの前に立ち、一緒に授業ができることを幸せに思います。」とおっしゃっていました。地域の方々も学校で子供たちと活動することを楽しみにしているのですね。

南会津域内は、学校と地域の関係が密接であり、子供たちの“豊かな体験”を支える協働・連携活動が充実しています。一方で少子高齢化や過疎の問題等が課題としてあるのも事実です。この豊かな体験が将来の子供たちにも受け継がれていくよう、地域の課題解決と持続可能な地域社会づくりに向けて、学校と地域が協力して取り組んでいくことが今後ますます大切になりますね。

年度末の忙しい時期になってきましたが、特色ある地域連携活動の予定がありましたらお知らせください。取材にお伺いします！

南会津教育事務所 総務社会教育課 担当（青田）
TEL 62-5367
メール aota_ryouchi_O1@pref.fukushima.lg.jp

